

2024年度以降入学生用 常磐大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

- 建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
 教育理念 自立・創造・真摯
 研究科の教育研究上の目的 (1)専攻分野について自立した研究者として研究活動を推進し、その成果をもって学術および文化の振興に寄与できる研究者および教育者を養成する。
 (2)専門的な職務に従事するために必要な研究能力および専門的知識を身につけて、社会の各分野で活動して社会一般の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を養成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)
(1)編成方針 生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、といった周辺諸科学の英知を集め、複眼的に人間理解に努めることができるように共通科目と2つの領域でカリキュラムを編成しています。	1年次		2年次			本研究科は、人間科学の専攻分野について、学術、文化の振興に寄与できる研究者、および高度な知識を身につけて社会の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を育成します。
	春semester	秋semester	春semester	秋semester		
(2)実施方針	(1)共通科目「人間科学の方法論研究」等では、学際的な人間科学を大学院で学ぶために必要となる、基礎知識と態度、技能を身につけるための教育を行います。	人間科学の方法論研究 人間科学文献研究 I	人間科学合同演習 人間科学研究法基礎 人間科学文献研究 II	人間科学合同特別演習		1.人間科学の幅広い視点にたつて人間を理解し、人間に関わる諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動できる。
	(2)第一領域「人間科学」では、人間の発達と適応、人間と社会・コミュニケーションについて、心理学、教育学、社会学を中心とした人間科学の視点から探究できるような科目を配置し、教育を行います。	生命科学特論 生命科学演習 心理学特論 I 心理学特論 II 心理学特論 III 心理学特論 IV 教育学特論 I 教育学特論 II 教育学演習 I 教育学演習 II 社会学特論 現代社会学特論 I 現代社会学特論 II 被害者学特論 産業・労働社会学特論 産業・労働社会学演習 コミュニケーション論特論 コミュニケーション学特論 I コミュニケーション学特論 II マス・コミュニケーション論特論	心理学演習 I 心理学演習 II 教育学特論 III 教育学特論 IV 社会学演習 I 社会学演習 II コミュニケーション論演習 マス・コミュニケーション論演習			
	(3)第二領域「臨床心理学」では、社会の中で生きる個としての人間が抱えるさまざまな心の問題に対して、研究に基づく心理臨床を実践できる臨床心理士、および公認心理師を養成するため、臨床心理士および公認心理師受験資格取得に必要な教育を行います。	臨床心理学特論 I 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) 臨床心理査定演習 (心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理学研究法特論 臨床人格心理学特論 臨床家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) 臨床精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開 B) 心理療法特論 公衆衛生科学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開 A) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 臨床心理学演習 ケース・マネジメント実習 I (心理実践実習) ケース・カンファレンス特論 I	臨床心理学特論 II 臨床心理面接特論 II 臨床心理査定特別演習 障害者 (児) 心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) 臨床発達心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 心の健康教育に関する理論と実践 ケース・マネジメント実習 II (心理実践実習) 臨床心理基礎実習 ケース・カンファレンス特論 II	臨床心理実習 I (心理実践実習) 臨床心理実習 II		2.人間科学の各分野においてリーダーシップを発揮して、人間社会の文化と福利に貢献することができる。
	(4)共通科目の「修士論文研究」「修士論文特別研究」では、各学生の設定したテーマを探究するための教育を行います。	修士論文研究	修士論文研究	修士論文特別研究	修士論文特別研究	

修士の学位授与

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	単位数・選択	学年	秋学期	春学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	＜SDGsの17のゴールとの関連＞	
												1	2
共通	人間科学の方法論研究	演習	2		1・2					人間科学の研究領域は非常に広く、研究方法も多種多様である。この授業では、教員がオムニバス形式により自身の研究領域を中心として、人間科学を構成している各領域の研究の方法論を紹介する。これを通じて人間科学のさまざまな研究方法論(理論的背景に基づく)を院生が俯瞰的に把握し、各目的の修士論文研究を進めるうえで参考となる視点と研究方法に出会う機会を提供することを目的としている。	(1) 人間科学の研究で用いられる研究方法論を理解し、修士論文作成の際にどのような研究方法を用いることができるかを考えることができる。 (2) 学生は各自の修士論文において、なぜその研究方法を採用するのか、その理論的背景と妥当性を問うことができる。	◎	
	人間科学研究法基礎論	演習	2							人間科学研究における代表的な研究手法と研究倫理について、理解を深めることを目的に、授業を行う。具体的には、人間の科学のための方法論についての、代表的テキストを精読し、その内容についてディスカッションする形式です。	(1) 人間科学の研究法について、系統だった知識がある。 (2) 研究を進めるうえで必要となる倫理的事項を理解している。 (3) 修士論文で採用する予定の研究法について、その特性を説明することができる。	○	
	人間科学合同演習	演習	1		1					授業は学生による研究発表と質疑討論の形式で行われる。修士論文のテーマとその意義、及び用いる研究方法と、アプローチを明確にし、それを全領域の教員と学生に対して、わかりやすくプレゼンテーションができるようになるため指導を行う。研究を進めるうえで必要となる、研究倫理上の手続きについても指導を行う。	(1) 研究テーマとその意義について説明し、多角的・多面的な視点で議論することができる。 (2) 研究倫理として必要となる手続きをすることができる。	◎	
	人間科学合同特別演習	演習	1		2					授業は学生による研究発表と質疑討論の形式で行われる。修士論文の研究課題(リサーチ・クエッション)と先行研究の水準を明確にし、それを全領域の教員と学生に対して、わかりやすくプレゼンテーションができるようになるため指導を行う。	(1) 研究課題と先行研究について説明し、多角的・多面的な視点で議論することができる。 (2) 研究発表のスキルを高めることができる。	●	
	人間科学文献研究Ⅰ	演習	2							受講者の研究関心・テーマに即して、人間科学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ精読・検討・討論する。	(1) 当該分野の和文・英語論文著書を正確に読むことができる。	○	
	人間科学文献研究Ⅱ	演習	2							受講者の研究関心・テーマに即して、人間科学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ精読・検討・討論する。	(1) 当該分野の和文・英語論文著書に基づいて議論することができる。	○	
	修士論文研究	演習	4		1					修士論文作成のための基礎的な知識と方法について理解を深め、修士論文のテーマの確定を進める。	(1) 修士論文作成のための基礎的な知識と技能を取得し、修士論文のテーマを設定できる。 (2) 自分の研究に必要な調査、実験などを適切に選択することができる。	◎	
	修士論文特別研究	演習	4		2					修士論文のテーマに即して、先行研究の水準を確認し修士論文の研究を進め、修士論文を完成できるように指導する。	(1) 収集した情報を適切に分析し、研究を計画的に進めることができる。 (2) 研究計画に基づく研究成果を、修士論文として完成させることができる。	●	
	生命科学特論	講義	2		1・2					21世紀の生命科学の発展に対応すべく、様々な観点から「人間とは何か」について学ぶ。生命科学の発展は、遺伝子に関する理解が深まったことに起因するが、生命現象を理解するためにはマクロ(生態系)からミクロ(分子)まで、幅広い知識が必要となる。最新の生命科学の知見を広く学び、バランスのとれたものの見方を養うとともに、受講者の研究の参考とすることを目標とする。	(1) ヒトを含む哺乳類における行動や心の進化と発達、および遺伝子の構造と機能について理解し、説明することができる。		
	生命科学演習	演習	2		1・2					生命科学に関する最新の論文を精読し、発表、議論をする。これらを通じて当該分野の現状を把握し、研究の背景や着想に至った経緯、具体的な研究方法についても学ぶ。	(1) 生命科学の諸問題がいかに解決されてきたかを理解し、それらについて議論することができる。	○	
心理学特論Ⅰ	講義	2							心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○		
心理学特論Ⅱ	講義	2							心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○		
心理学特論Ⅲ	講義	2							心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○		
心理学特論Ⅳ	講義	2							心理学の特定の分野の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 心理学の特定の分野における最新の研究を理解し、説明することができる。	○		
心理学演習Ⅰ	演習	2							受講者の研究関心・テーマに即して、心理学の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ精読・検討・討論する。	(1) 各自の研究テーマと関連のある心理学の特定の分野について、幅広く文献をレビューし、論理的かつ具体的に説明することができる。 (2) 研究計画の立案、的確な解析手法の選択など、研究を行う上で必要な方法を理解することができる。	○		
心理学演習Ⅱ	演習	2							受講者の研究関心・テーマに即して、心理学および関連する分野の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ精読・検討・討論する。	(1) 各自の研究テーマと関連のある心理学の特定の分野について、幅広く文献をレビューし、論理的かつ具体的に説明することができる。 (2) 研究計画の立案、的確な解析手法の選択など、研究を行う上で必要な方法を理解することができる。	○		

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連	
										●	◎
第I領域 人間科学	教育学特論Ⅰ	講義	2	○	1	1	人間科学としての教育学の代表的なアプローチを整理するとして、「教育」を対象とする最新の研究動向について検討する。	(1) 人間科学としての教育学の代表的なアプローチについて、自身の研究関心へ結び付けて理解することができる。 (2) 「教育」を対象とする最新の研究動向について、自身の研究関心へ結び付けて批判的に検証することができる。	○		
	教育学特論Ⅱ	講義	2	○	1	2	一つの教科をとりあげ、その教科における教科教育学研究史とその形成の基盤になった海外の教科教育学研究について取り上げ、適宜、受講者による討論を取り入れる。	(1) 特定の教科における教科教育学研究史の展開を説明することができる。	○		
	教育学特論Ⅲ	講義	2	○	1	2	教育方法論の基礎理論をとりあげ、教授と学習の基本的問題とその解決策について具体的な事例に即して解説する。適宜、受講者による討論や発表を取り入れる。	(1) 教育方法論の理念と基礎理論について、具体的な事例に即して説明することができる。	○		
	教育学特論Ⅳ	講義	2	○	1	2	一つの教科をとりあげ、その教科における現代の教科教育学の最先端の主要テーマの研究動向とその知見を取り上げ、適宜、受講者による討論を取り入れる。	(1) 特定の教科における現代の教科教育学の各分野の最新動向と基本的知見について説明することができる。	○		
	教育学演習Ⅰ	演習	2	○	1	2	教育のあり方をめぐる国際的な議論を取り上げ、その議論が日本の教育政策・教育実践にどのような影響を及ぼすのかを検討する。	(1) 教育のあり方をめぐる国際的な議論が日本の教育政策・教育実践にどのような影響を及ぼすのか、論理的かつ具体的に説明することができる。 (2) 教育のあり方をめぐる国際的な議論が日本の教育政策・教育実践に及ぼす影響について、自身の研究関心へ結び付けて批判的に検証することができる。	○		
	教育学演習Ⅱ	演習	2	○	1	2	受講者の研究関心・テーマに即して、教科教育学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1) 教育学の和文・英語論文著書を正確に読むための留意点を理解することができる。 (2) 授業で取り扱う資料について、教科教育学研究の位置づけを理解することができる。	○		
	社会学特論	講義	2	○	1	2	この授業では、授業担当者が専門とする特定の水準から、社会学の基礎的テーマである人間と社会について、最新の議論を検討する。	(1) 授業で扱った観点から、社会的存在としての人間について理解している。 (2) 授業で扱った観点から、人間が作り出す社会の諸特徴について、最新の研究動向についての知識がある。	◎		
	現代社会学特論Ⅰ	講義	2	○	1	2	現代社会に関する社会学研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 社会学に関する最新の研究動向についての知識を身につけている。 (2) 専門書および論文で用いられている研究の方法論を理解することができる。	○		
	現代社会学特論Ⅱ	講義	2	○	1	2	この授業では現代社会で発生している社会事象に焦点を当て、社会学とそれに関連する分野の研究動向に関する知識と理解を深めることを目的とする。	(1) 授業で扱ったテーマに関する知識がある。 (2) 授業で扱ったテーマに関するこれまでの研究の進展や、今後の研究動向に関して自ら問いを構築することができる。	○		
	被害者学特論	講義	2	○	1	2	この授業では、犯罪被害者に関する事項について取り上げ、とりわけ犯罪被害者の現状及び犯罪被害者の支援に関する知識と理解を深めることを目的とする。	(1) 犯罪被害者に関する知識を身につけている。 (2) 授業で扱ったことを基本として、犯罪被害者に対する支援について自ら提言することができる。	○		
	社会学演習Ⅰ	演習	2	○	1	2	受講者の研究関心・テーマに即して、社会学の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1) 社会学の和文・英語論文著書を正確に読むための留意点を理解することができる。 (2) 授業で取り扱う資料について、社会学研究における位置づけを理解することができる。	○		
	社会学演習Ⅱ	演習	2	○	1	2	受講者の研究関心・テーマに即して、社会学および関連する分野の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ輪読・検討・討論する。	(1) 授業で取り扱う分野の和文・英語論文著書を正確に読むための留意点を理解することができる。 (2) 授業で取り扱う和文・英語論文著書に基づいて議論することができる。	○		
	産業・労働社会学特論	講義	2	○	1	2	産業・労働社会学における最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 産業・労働社会学に関する最新の研究動向についての知識を身につけている。 (2) 組織の基本構造とその変動について、理解することができる。	○		
	産業・労働社会学演習	演習	2	○	1	2	受講者の研究テーマに産業・労働社会学的な観点からどのようにアプローチできるかを主眼として、内容を組み立てる。それにより、受講生の修士課程での研究と深化と広がりを現実のものとする。	(1) 産業・労働社会学的な観点から企業経営におけるトピックに関する問題を理解し、それを論文作成の基礎とすることができる。 (2) それらを学んだのち自らの学問的立場を確立することができる。	○		
	コミュニケーション論特論	講義	2	○	1	2	人間科学の幅広い視点にたつて人間を理解するため、社会学、言語学、コミュニケーション理論などの観点からコミュニケーション学の成立の歴史について学ぶ。	(1) コミュニケーションに関する諸理論を専門的な見地から系統立てて説明することができる。 (2) それらを学んだのち自らの学問的立場を確立することができる。	○		
	コミュニケーション学特論Ⅰ	講義	2	○	1	2	本授業では、コミュニケーション学の特定領域の研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。授業は、発表担当者がレジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で展開する。	(1) コミュニケーション学に関する最新の研究動向についての知識を身につけている。 (2) 専門書および論文で用いられている研究の方法論を理解することができる。 (3) 論文を独力で読み、内容を理解することができる。	○		
コミュニケーション学特論Ⅱ	講義	2	○	1	2	本授業では、コミュニケーション学の研究動向に関する知識と理解を深めることを目的とする。授業は、参考書籍の中から各自が章を選んでレジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で行う。	(1) 授業で扱ったテーマに関する知識がある。 (2) 授業で扱ったテーマに関するこれまでの研究の進展や、今後の研究動向に関して自ら問いを構築することができる。	○			

<SDGsの1のゴールとの関連>
 議論:SDGsの概念や考え方を学ぶ
 ①:貧困をなくそう
 ②:飢餓をゼロに
 ③:すべての人に健康と福祉を
 ④:質の高い教育をみんなに
 ⑤:ジェンダー平等を実現しよう
 ⑥:安全な水とトイレを世界中に
 ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 ⑧:働きがいも経済成長も
 ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう
 ⑩:人や国の不平等をなくそう
 ⑪:住み続けられるまちづくりを
 ⑫:つくる責任つかう責任
 ⑬:気候変動に具体的な対策を
 ⑭:海の豊かさを守ろう
 ⑮:陸の豊かさも守ろう
 ⑯:平和と公正をすべての人に
 ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	学年	秋学期	春学期	サバタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	＜Sbbsの1のゴールとの関連＞	
											1	2
	コミュニケーション論 演習	演習	2	1	2	○		人間科学の幅広い視点から人間を理解するため、社会における様々なコミュニケーションの類型に関する基礎的研究について学ぶ。	(1) 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見いだすため、コミュニケーションの概念、コミュニケーションの諸類型に関する理論を具体例を示しつつ説明することができる。 (2) 自立した研究者として社会一般の福祉の向上に貢献することができる。	○	③	
	マス・コミュニケーション論 講義	講義	2	1	2	○		人間科学の幅広い視点から人間を理解するため、メディア・コミュニケーションの過程、構造、機能、効果に係わる研究(特に社会的、社会心理学的見地に基づく)について検討する。教員が指定するテキストを読んでいることを前提とした授業である。疑問に答えるというかたちでの講義を展開することはない。	(1) 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見いだすため、メディア・コミュニケーションに関する諸理論を専門的な見地から説明することができる。 (2) 先行研究の内容を理解するだけでなく、具体例を用いたかみかみ(日本語で)説明することができる。 (3) 先行研究の内容を理解するだけでなく、それらを系統立てて学んだら、自らの学問的立場を確立することができる。 (4) 大量の英文を読むことで、文献を読むコツを修得することができる。	○		
	マス・コミュニケーション論 演習	演習	2	1	2	○		人間科学の幅広い視点から人間を理解するため、マス・メディアが、コミュニケーションに与える影響に関するについて検討する。教員が指定するテキストを読んでいることを前提とした授業である。疑問に答えるというかたちでの講義を展開することはない。	(1) 人間科学の専攻分野で創造的な学術的知見を見いだすため、コミュニケーションの概念、コミュニケーションの効果に関する理論を具体例を示しつつ説明することができる。 (2) 近年登場したメディアの影響をコミュニケーション論の視点から系統立てて説明することができる。 (3) コミュニケーション理論だけでなく、統計学の知識があることが前提となり、自立した研究者として社会一般の福祉の向上に貢献することができる。 (4) 大量の英文を読むことで、文献を読むコツを修得することができる。	○	③⑨	
	臨床心理学特論Ⅰ	講義	2	1	2	○		高度な専門性と倫理観とを兼ね備えた専門職業人としての臨床心理士となつための基礎を養うことを目的に、臨床心理学の基礎理論、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助技法、臨床心理学的地域援助技法などについての概略を学ぶ。 臨床心理士の職域は広い、それぞれの現場にはどのようなクライアントが来訪するのだろうか、そしてどのような心理検査が使われ、どのような心理療法が行われているのだろうか。クライアントをとりまく地域に対して臨床心理士には何が出来るのだろうか、他職種の専門家とのかかわりはどうなっているのだろうか、臨床心理士に関わる倫理とは何だろうか、こうしたことを学生に伝え、そして共に考えていきたい。	(1) 臨床心理士の活動領域、及び心理検査、心理療法を含めての、そこで具体的な活動等について理解し、説明することができる。		◎	
	臨床心理学特論Ⅱ	講義	2	1	2	○		高度な専門性と倫理観とを兼ね備えた専門職業人としての臨床心理士となつための基礎を養うことを目的に、臨床心理学の基礎理論、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助技法、臨床心理学的地域援助技法などについての概略を学ぶ。 臨床心理士の職域は広い、それぞれの現場にはどのようなクライアントが来訪するのだろうか、そしてどのような心理検査が使われ、どのような心理療法が行われているのだろうか。クライアントをとりまく地域に対して臨床心理士には何が出来るのだろうか、他職種の専門家とのかかわりはどうなっているのだろうか、そこで問われる倫理とは何だろうか、こうしたことを学生に伝え、そして共に考えていきたい。	(1) 臨床心理士の活動領域、及び心理検査、心理療法を含めての、そこで具体的な活動等について理解し、説明することができる。		◎ ③	
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	講義	2	1	2	○		さまざまな悩みをかかえて来訪する者の相談に応じ、その心理に関する助言、指導その他の援助を行うためには、心理支援に関するさまざまな理論、方法を習得する必要がある。この授業では行動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法について学ぶ。	(1) フロイトやユングなどの力動論を理解し、説明することができる。 (2) 心理療法や行動分析などの認知・行動論を理解し、説明することができる。 (3) 芸術療法や交流分析などその他の理論について理解、説明することができる。 (4) 心理に関する相談、助言、指導等へ上記の理論を応用することができる。 (5) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて、適切な支援方法を選択・調整することができる。		◎	
	臨床心理面接特論Ⅱ	講義	2	1	2	○		臨床心理面接特論Ⅰで習得した力動論に基づく心理療法、行動論・認知論に基づく心理療法、その他の心理療法の理論と方法に関する相談、助言、指導等への応用の仕方について学ぶ。心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択について学ぶ。	(1) 力動論、認知行動論などのさまざまな理論がどのような来訪者に適用可能なか理解し、説明することができる。		◎	
	臨床心理査定演習 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習	2	1	2	○		臨床心理査定は、心理臨床の土台であり骨格である。クライアントの面談の中で語られる内容や見えぬ観察を通して見えてや方針を定めることができる場合もあれば、必要に応じて心理検査を施行し、そこから得られる情報を統合して査定を行うことである。本演習では、臨床現場で頻度使用の高い心理検査を取り上げ、背景理論や方法論、実際の施行法を解説する。受講生には、各自で心理検査を実施した結果をレポートにまとめて提出することを求める。	(1) 各種心理検査の、その基礎となる理論を理解することができる。 (2) 各種心理検査を実際にも実施し、その結果について解釈するための基礎的な技術を身につける。 (3) 公認心理士の実践における心理アセスメント意識について説明できる。 (4) 心理に関する相談、助言、指導等へ心理アセスメントを応用することができる。		◎	
	臨床心理査定特別演習	演習	2	1	2	○		臨床心理査定は、心理臨床の土台であり骨格である。クライアントの面談の中で語られる内容や見えぬ観察を通して見えてや方針を定めることができる場合もあれば、必要に応じて心理検査を施行し、そこから得られる情報を統合して査定を行うことである。本演習では、「臨床心理査定演習」や「ケース・カンファレンス特論Ⅰ」で身につけた知識を応用的に活用できるようにするため、検査依頼者やクライアントに報告することを想定し、それぞれのニーズに対応した報告書を作成するところまでを学習する。文献発表の場には、文献中に使われている各種心理検査の実施方法・結果のまとめ方・解釈法等を含めて説明できるように準備することを求める。	(1) 関係する文献(研究論文・事例研究)を「調べる力」と「読む力」を身につける。 (2) 支援を要する対象者とその関係者のニーズに対応した報告書といかにあるべき「考える力」と「表現する力」を身につける。		◎ ③	
	臨床心理基礎実習	実習	2	1	○			公認心理師・臨床心理士として必要な心理臨床に関する基礎的臨床知識やスキルを下記プログラムに沿って習得します。実習では、担当教員が交代・共同で行う講義や文献輪読、実践技法等に関するグループワークやディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを通して学びます。	(1) 臨床心理の専門的職業人に必要な基本的態度や倫理観が身につく。 (2) 臨床心理の専門的職業人に必要な各種技法に関する基本的知識・技能、記録のまとめ方、評価の方法などの基本知識・技能を習得する。		◎	
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	実習	2	2	○			本実習科目は、学内の心理臨床センターにおける実習と学外施設における実習の2つから構成される。学内の心理臨床センターでの実習は1年生から始まる。①面談場面の観察、②受面接の陪席、これらを経た後に、③実際にケースを担当する。ケースを担当する学生は、教員によるスーパービジョンを受け、ケースカンファレンスにおいて報告する。学外施設での実習は原則として2年生から始まる。実習期間、実習日時は本学と各実習施設が協議して決められる。実習後は学内で報告会を行う。	(1) 実習の場で要請される心理検査を実施する技術と能力、心理療法を実施することができる技術と能力を身につける。 (2) 公認心理師が働く機関を理解し、そこでチームの一員として働くことができる職業人としての能力を身につける。 (3) 自分が行った実践活動を振り返り、評価し、新しい視点を持って実践者であらう研究者でもあるという態度を身につける。 (4) 学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう伝えたいのか、理解し、説明することができる。	●	③	

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	単位取得に必要	秋学期	春学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	到達目標との関連	
											●	◎
第II領域 臨床心理学	臨床心理実習Ⅱ	実習	2	2	2	○			本実習科目は、学内の臨床心理学センターにおける実習と学外施設における実習の2つから構成される。学内の臨床心理学センターでの実習は1年生から始まる。①面接場面の観察、②受面接の経験、これらを経た後に、③実習にケースを担当する。ケースを担当した学生は、教員によるスーパービジョンを受け、ケースカンファレンスにおいて報告する。学外施設での実習は原則として2年生から始まる。実習期間、実習日時は本学と各実習施設が協議して決められる。実習後は学内で報告会を行う。	(1)実習の場で要請される心理検査を実施する技術と能力、心理療法を実施することができる技術と能力を身につける。 (2)公認心理師が働く機関を理解し、そこでチームの一員として働ける職業人としての能力を身につける。 (3)自分が行った実践活動を振り返り、評価し、新しい展望が持てる実践者であらう研究者でもあるという態度が身につける。 (4)学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。	●	③
	臨床心理学研究法特論	講義	2	1	2	○			本講義は臨床心理学を履修し、臨床心理学を実践できる臨床心理士を養成するため、臨床心理学研究法では、臨床心理学で用いられる、量的研究・質的研究法を概観し、その特徴を学びます。各学生の研究テーマに必要な研究法とデータ分析の実践的題材を元に授業を進めます。	(1)臨床心理学研究で重要な位置を占める質的研究法の特徴を理解することができる。 (2)臨床研究の倫理的配慮を理解することができる。 (3)研究法に関する専門用語、概念を理解することができる。	◎	
	臨床心理学演習	演習	2	1	2	○			近年、臨床心理学とそのアプローチ方法は、多種多様な領域で役立つことが期待されています。本講義は社会の中で生きる個としての人間が抱える様々な心の問題に対する臨床実践を、大きく「子ども」「社会との関わり」の2分野に分けて、総合的に伝えます。講義形式で、提供した情報を基に、ディスカッションやディベート等のアクティブラーニングによって内容をより自身の問題として引きつけて理解することを重視します。	(1)幅広い視点で、人間を理解しようとする事ができる。 (2)社会の福祉の増進に寄与できる専門的職業人としての知識を身につける。	◎	③
	臨床人格心理学特論	講義	2	1	2	○			「精神分析」は、20世紀初頭にフランスでフロイトが始めた方法で、観察を用い、1回45分ないし50分のセッションを週4回から定期的にもつ。フロイト自身は、心理学はもともと医学領域から文化(ゲーテ賞受賞者である)に至るまで広範囲に影響を与えた人物である。「精神分析」は古くは英語性に乏しく、非科学的だとも言われる。その一方で米国精神科シニア学会は2010年に「精神科医の必須の精神療法として」「認知行動療法」「支持療法」「長期精神分析的療法」の3つを挙げた。本授業では、フロイトの「精神分析」による密で深い交流から得た知見をもとに、幅広い臨床心理学の知見を獲得することを目的とし、より実用的な「精神分析的心理学法」について学習する。	(1)精神分析の人格理論(前意識、構造論、力動論、発達論、対象関係論、対人関係論)を説明することができる。 (2)精神分析の病態論(抑圧などの防衛機制、自我機能の不発、不安、退行、転移神経症など)を説明することができる。 (3)心理療法に関する技法の1つとして精神分析的心理学法を説明することができる。	○	
	臨床発達心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	1	2	○			発達にはさまざまな側面がある。例えば新版RK式発達検査では姿勢・運動機能、認知・適応領域、言語・社会領域の領域の発達をみる。認知・適応領域には運動機能の発達、視覚的記憶の発達、描画行動の発達などが含まれる。言語・社会領域には社会性の発達、聴覚的記憶の発達、言語理解の発達、言語表現の発達、数の理解の発達などが含まれる。本授業ではさまざまな発達理論の中でも認知と社会性、そして母子関係に焦点をあてて学んでもらう。	(1)心理発達面に課題をかかえて実践する者に対して、その相談に応じ、助言、指導等を行ううえで、知っておくべき発達理論について理解し、説明することができる。 (2)公認心理師としての教育分野に関する理論を理解し、支援を展開することができる。 (3)教育分野に関わる公認心理師の実践について理解し、説明することができる。 (4)教育分野に関わる公認心理師の実践について理解し、説明することができる。	◎	
	臨床家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	講義	2	1	2	○			現代社会の状況を念頭に置きながら、家族心理学の課題とその解決法について解説する。また、家族を取り巻く集団や地域社会における心理支援に関する理論と実践について解説する。個人実習やグループワークも取り入れながら体験的に理解を深める。後半では各受講生の興味関心を絡めて、研究論文を講読し、レジメやパワーポイントにより発表を課す。	(1)家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法を説明することができる。 (2)地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を説明することができる。 (3)心理に関する相談、助言、指導等への上記2点の応用について理解することができる。	◎	
	公衆衛生科学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開A)	講義	2	1	2	○			公衆衛生(public health)とは、「地域社会の組織的な取り組みを通じて、疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならに精神的な能力を増進するための科学(science)と技術(art)であると定義されている。公衆衛生の対象は一個人ではなく集団である。この授業では、公衆衛生の理念・技術について学び、人々の健康づくりに向けた公衆衛生活動について理解することを目標とする。具体的には、母子健康、学校保健、成人・老年保健、感染症を含む環境保健、国際保健、さらに生活習慣病について理解することを目標とする。	(1)公衆衛生の概念・疫学の方法・環境保健・国際保健などについて理解し、各々について説明することができる。 (2)疫学研究と倫理について、特に医学に関連する研究推進時に倫理を確保するために理解することができる。 (3)公衆衛生や疫学は感染症対策として発展してきた。感染症における病源の種別としての感染源、感染経路、宿主の要因を中心に予防対策を含めて理解することができる。	◎	③
	臨床精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開B)	講義	2	1	2	○			保健医療分野に関わる公認心理士の実践について精神医学との関連を学ぶ。	(1)主要な精神疾患の理解と精神科医療のシステムについて理解することができる。	◎	
	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	1	2	○			障害者(児)への具体的な支援の方法について学ぶことが主目的となる。支援の方法は発達期によって異なる。幼児期の支援の方法と学童期の支援の方法は同じではない。障害者(児)の種別や年齢ごとの支援の方法は展開されていかなければいけない。そしてもう一つ重要なことがある。それは支援が臨床心理職だけでなく医師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など、多くの専門職種の方々と協働していかなければいけない。そのために協働しがいかに必要なのか、そのことについてもこの授業で学んでいってもらいたい。	(1)障害者とその内容、障害者への臨床心理学的支援方法(心理検査を含む)について理解し説明することができる。 (2)公認心理師としての福祉分野に関する理論を理解し、支援を展開することができる。 (3)福祉分野に関わる公認心理師の役割について説明することができる。	◎	③
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	1	2	○			産業・労働場面で実際に起こりうる様々な問題に対応できる知識と実践力を身につける。一方的な授業だけでなく、ディスカッションや必要に応じてロールプレイも実施する。また、with/afterコロナ時代において急遽に広ったオンラインカンファレンスについてもロールプレイを通して留意点や円滑な実施のためのポイントも押さえていく予定である。	(1)産業・労働分野の基礎知識について理解することができる。 (2)産業・労働分野での実践および展開力を養うことができる。	○	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	1	2	○			公認心理師・臨床心理士として稼働するために必要となる司法・犯罪分野の基礎知識と支援実務の概要を学ぶ。非行・犯罪や家事事件の動向、基礎となる原因論・処遇理論、各種制度の概観となる法制度、加害者の再犯防止や立ち回り支援、被害者の回復支援に必要とされる実務場面上におけるアセスメントや効果的な介入技法などを刑事司法過程ごとに系統的に学修することにより、将来、本分野に関わる際に心理職として有効な働きかけが可能となるよう基礎的コンピテンスを養う。	(1)司法・犯罪領域で必要とされる基本知識を理解し、具体的な臨床事例に即して説明できる。 (2)効果的な支援につながるアセスメントや介入の基本的枠組みを検討することができる。	○		

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	学年	秋学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	ディプロマ・ポリシーとの関連	SDGsとの関連
	心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	○	1	2	公認心理師法に定められた公認心理師の4つ行為、つむぎアセスメント、心理支援、関係者支援、心の健康教育のうち前三者は心理支援を要する者と関係者へのサービスである。それに対して心の健康教育はすべての国民を対象とする。それゆえに心の健康教育が求められる分野は、保健医療、学校教育、福祉、産業、災害など多岐にわたる。本講義では心の健康教育のあり方についてまず学び、心の健康教育の理論と実践について分野別に学び、最後に心の健康教育を進めていく上で必要となる工夫やアイデアなどについて学ぶ。併せて公認心理師の必要性や専門性を社会に説明する力も養ってきたい。	(1)心の健康教育に関する理論を説明することができる。 (2)心の健康教育に関する実践することができる。	◎	③	
	心理療法特論	講義	2	○	1	2	本講義は個としての人間が抱える様々な心の問題に対するエビデンスのある臨床心理学的支援である認知行動療法(CBT)を学びます。CBTは、医療・教育分野で広く用いられ、健康な人にも、ストレス管理に役立つセルフケアツールとなります。この授業では、認知行動療法の基本モデルを学び、基本的スキルをロールプレイを通して体験学習する。基本的なスキルにはリフレーミング法、認知再構成法、問題解決法が含まれます。一回の標準的な授業は、発表、講義、ロールプレイ、振り返りのセットとします。	(1)自身の身近なストレス状況を、CBTの基本モデルに基づいて人間が理解することができる。 (2)臨床心理領域の枠組みにおいて、CBTに必要なアセスメントと心理教育について理解することができる。 (3)CBTの認知再構成法と問題解決法の手順を習得することができる。	◎		
	ケース・カンファレンス特論Ⅰ	講義	2	○	1	2	学生は事前した面接、担当したケースについての詳細な記録を作成し、担当教員から個別のスーパービジョンを受ける(ケース・マネジメントを参照)。その後、事前した面接ケース、担当したケースについて、ケース・カンファレンスで報告する。ケース・カンファレンスにはすべての学生、教員が参加し、報告されたケースについて討論する。ケース・カンファレンスに参加することで、ケースの見立てと介入方法の多様性について理解できる。	(1)教員は皆、よってたつ理論が異なる。そうした教員が一緒に会するカンファレンスで自分のかかわったケースを報告することで(あるいはその報告を聴くことで)、学生はケースの見立てと介入方法の多様性について理解することができる。	◎		
	ケース・カンファレンス特論Ⅱ	講義	2	○	1	2	学生は事前した面接、担当したケースについての詳細な記録を作成し、担当教員から個別のスーパービジョンを受ける(ケース・マネジメントを参照)。その後、事前した面接ケース、担当したケースについて、ケース・カンファレンスで報告する。ケース・カンファレンスにはすべての学生、教員が参加し、報告されたケースについて討論する。ケース・カンファレンスに参加することで、ケースの見立てと介入方法の多様性について理解できる。	(1)教員は皆、よってたつ理論が異なる。そうした教員が一緒に会するカンファレンスで自分のかかわったケースを報告することで(あるいはその報告を聴くことで)、学生はケースの見立てと介入方法の多様性について理解することができる。	◎		
	ケース・マネジメント実習Ⅰ(心理実践実習)	実習	2	○	1	2	ケースを担当する学生が、教員から、個別にスーパービジョンを受ける。そのために、学生は詳細なケース記録を作成し、スーパーバイザーに報告する。ケースによっては介入場面をビデオで撮影し、それをスーパーバイザーに見てもらい必要がある。 ①ケースの見立てがきちんとなされているかどうか、心理検査を実施した場合にはその解釈が妥当かどうか、これがまらず問われる。次に②見立てに基づいて選択した介入方法が理にかなったものであるかどうか、③しかもその介入は適切に行われているかどうか問われる。 本授業の中で①②③についての検討が行われ、必要に応じて修正し、それを次回の介入に生かしていく。そしてまたその後のスーパーバイズで①②③についての検討が行われる。	(1)ケースを見立て、それに基づいて、そのケースに相応しい介入方法を選択し、それを適切に実行に移すことができる。そしてその結果を自分でチェックすることができる。しかもこれらの過程をきちんと言語化することができる。 (2)学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。	◎		
	ケース・マネジメント実習Ⅱ(心理実践実習)	実習	2	○	1	2	ケースを担当する学生が、教員から、個別にスーパービジョンを受ける。そのために、学生は詳細なケース記録を作成し、スーパーバイザーに報告する。ケースによっては介入場面をビデオで撮影し、それをスーパーバイザーに見てもらい必要がある。 ①ケースの見立てがきちんとなされているかどうか、心理検査を実施した場合にはその解釈が妥当かどうか、これがまらず問われる。次に②見立てに基づいて選択した介入方法が理にかなったものであるかどうか、③しかもその介入は適切に行われているかどうか問われる。 本授業の中で①②③についての検討が行われ、必要に応じて修正し、それを次回の介入に生かしていく。そしてまたその後のスーパーバイズで①②③についての検討が行われる。	(1)ケースを見立て、それに基づいて、そのケースに相応しい介入方法を選択し、それを適切に実行に移すことができる。そしてその結果を自分でチェックすることができる。しかもこれらの過程をきちんと言語化することができる。 (2)学内実習と学外実習での学びを公認心理師としてどう捉えたら良いのか、理解し、説明することができる。	◎		

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	＜SDEの1のゴールとの関連＞	
										到達目標	到達目標
	学習心理学特論	講義	2	○	1	2		学習が、個体を振り回す環境との関わりによって、個体の行動が比較的に永続的に変化する過程であるから、この過程を調べる事で、個体の行動を制御することができる。学習の研究が、個体の行動を環境に適した方向に制御することを志向するならば、そのような研究の成果を教育や臨床の問題に応用することができる。教育現場での知識の獲得や運動技能の学習に役立つことができる。いわゆる「心」の問題といわれている問題の解決にも役立つことができる。「学習心理学特論」は、学習が技能習得や臨床的問題などどのように関連するのか、学習の基礎的な知見とその理論的意義を理解した上で明らかにする。本講では主に運動技能学習について考察する。自転車や自動車など、目と手の協応が求められる動作は、はじめは上手くできないが練習を重ねることで失敗と成功を繰り返しながら徐々に乗りこなせるようになる。このように動作や行動の習得向上は運動技能学習と呼ばれる。運動技能の学習経過では練習の回数とともに成績が変化したり、停滞したり、急激に上昇したりする。授業では、競技スポーツや企業で行われる作業などの様々な運動と作業特性を踏まえ、効果的な学習方法を整理する。	(1) 人間科学の幅広い視点にたつて人間を理解し、人間に関する諸問題を世界的視野で捉え、その解決に向けたものようになる。 (2) 心の発達や行動や発達を心理学的に分析できるようになる。 (3) 基礎心理学領域の研究への応用を意識した知識が身につくようになる。	○	
	学習心理学演習	演習	2	○	1	2		学習心理学および隣接領域(知覚・記憶・知識の獲得過程)について脳科学的側面から考察する。まず、解剖学・生理学・神経心理学の視点から脳の部位別の機能特性やニューラルネットワークの構築過程を把握し、知覚の情報処理過程(視覚・聴覚)を整理する。さらに、MRI・視線計測・心拍・脳波・筋電を基にした生理計測と主観から得られた実験的研究を基に、記憶や知識の獲得過程についても考察していく。文献資料を基に授業を進めるが、授業後半では実際に計画も行いデータ解析も行う。	(1) 人間科学の専攻分野と関連領域において、果敢と研究した高度な専門的能力を基礎に、世界的視野で考え、当該分野でリーダーとして問題解決を指導することができる。 (2) 脳科学領域を深く理解し、基礎心理学領域の研究への応用を意識した知識を身につけ活用することができるようになる。		○
	人格心理学特論	講義	2	○	1	2		その人らしさを生み出す人格とは、どのように出来上がり危険に晒されたり変化を遂げたりするのであろうか。本講義は人間の発達と適応において「人格」という概念がどのように捉えられ、取り扱われてきたかを総論的に学びます。前半は人格に対する理論を、後半は人格のメカニズムや構造に関する精神分析の考え、自我発達理論などを理解した後に、心理療法は人格が変容することにより容すか否かをディスカッションやペアワーク等のアクティブラーニングによって考えます。	(1) 心理学における人格についての諸理論を理解し、その知見を述べることができる。 (2) 人格心理学の観点から自己や他者に対する理解を深め、分析する力を身につける。 (3) 私たちが社会に対し、自分の気持ちやパーソナリティと折り合いをつけるながら、適応的に生きることの難しさと必要性について考えることができる。	○	
	人格心理学演習	演習	2	○	1	2		その人らしさを生み出す人格は、どのように把握され、分析あるいは解釈されているのでしょうか。本講義は人間の発達と適応において「人格」という概念が臨床現場でどう捉えられ、取り扱われてきたかを総論的に学びます。前半は人格に対する代表的な心理検査の技法について、後半は人格のメカニズムや構造に基いた心理実験あるいは調査を、実習やペアワーク、プレゼンテーション等のアクティブラーニングによって研究にまとめます。	(1) 人格心理学理論に基づいた心理検査の技法を理解し分析することができる。 (2) 人格心理学を応用した心理学実験あるいは調査をデザイン、実施して、その研究結果をまとめることができる。 (3) この演習を通して、人格心理学についての造詣を深めることができる。		○
	行動適応学特論	講義	2	○	1	2		環境に適応する行動の学習や、環境への働きかけなどにかかわるメカニズムについて、主にリスク認知およびunsafe act(不安全行動・エラー)と安全文化構築に向けたプロセスの両方から考察する。我々は、様々な環境のもと、状況把握し、問題解決のために意思決定を行う。この意思決定は大きくて大きな災いをもたらすことがあり、たった一人の些細な判断ミスから社会に強いインパクトを与えるような重大事故に至ることもあった。このような重大事故は組織内の複雑な問題や利害関係が絡んだ独特な文化が影響することが分かっており、安全にかかわる文化が個人の行動や意思決定に影響することも分かっている。授業では、個人が起すエラーや不安全行動と組織の問題である安全文化の醸成がどのように関わっているのか、様々なケースから考察していく。	(1) 人間科学の幅広い視点にたつて人間を理解し、人間に関する諸問題を世界的視野で捉えることができる。 (2) 解決に向けて、研究者として、あるいは専門的職業人として行動することができる。 (3) 個人の不安全行動や組織事故にいたるような文化など、組織と個の関係を整理し、産業災害の全体を俯瞰することができる。		○
	心障心理学特論	講義	2	○	1	2		人はさまざまな身体的特徴や能力的特徴を持っている。たいていの場合その変動はわずかにあり、ほとんどの子どもたちは、通常の学級で教育を受け、そこから多くの利益を得ることができる。しかし、その特徴が標準から著しく逸脱してしまっていて、通常の教育からは十分に利益を得られない者もいる。そのような子どもたちは特別な教育プログラムやサービス、すなわち特別支援教育を受けることになる。この授業では、特別支援教育の現状と課題、対象となる子どもたちの特徴とサービスの内容について理解を深めることを学習目標とする。	特別支援教育の現状と課題、対象となる子どもたちの特徴とサービスの内容について理解を深めることを目指す。具体的には次の通りである。 (1) 特別支援教育の対象となる子どもたちの診断的特徴と行動的特徴を説明することができる。 (2) 特別支援教育の対象となる子どもたちの教育的ニーズを具体的に説明することができる。 (3) 特別支援教育の対象となる子どもたちへの基本的教育方法を説明することができる。	○	
	教育学演習Ⅲ	演習	2	○	1	2		受講者の研究関心・テーマに即して、科学教育学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ論議・検討・討論する。	(1) 教育学の和文・英語論文著書を正確に読むことができる。		○
	教育学演習Ⅳ	演習	2	○	1	2		受講者の研究関心・テーマに即して、教科教育学関連の和文誌・英文誌掲載論文・著書を取り上げ論議・検討・討論する。	(1) 教育学の和文・英語論文著書に基づいて議論することができる。		○
	地域社会学特論	講義	2	○	1	2		「地域社会学特論」においては、地域社会学のフィールドを農村・都市に限定し、人口減少に直面し、従来の地域原理が機能しなくなっていることから、地域再編という今日の課題への理解を深めることを、目的とする。そのために、地域社会学の組織原理に関する古典的研究と、人口減少時代における地域の機能に関する最新の研究とを並行して論議し、教員の解説、受講生同士で議論を行う。	(1) 学生は、地域社会学の組織原理について、総合的に理解できる。 (2) 学生は授業で取り上げる具体的な局面における、地域社会学の今日的展開とそこでの課題について、理解できる。	○	◎
	地域社会学演習	演習	2	○	1	2		地域社会学演習においては、近年農村や中山間地等において行われた地域社会学研究の文献講読を通して、受講生が具体的な地域社会学研究の手法を学ぶことを目的とする。	(1) 学生は、近年の地域再編の動向を理解できる。 (2) 学生は、地域社会学研究の具体的な手法を理解し習得することができる。		○
	地域振興特論	講義	2	○	1	2		地方分権の推進で地方自治体の権限が拡大したことにより、自治体はそれぞれの地域特性に応じた政策の展開が求められるようになった。一方で少子高齢化の進行や財政難など、自治体を取り巻く環境は厳しさを増している。このような状況下において「自治体」の新たな政策を議論していくべきなのか、この講義では、首長、議会、行政職員、市民、企業など多様なアクターに焦点を当て、様々な事例の分析を通じて、これからの地方自治に求められるあり方を検討する。	(1) 現代の自治体の変化の姿を全体として捉えることができる。 (2) 受講者自らの個別の研究テーマに、ふくらみを持たせることができ、研究の意義と位置づけに役立たせることができる。	○	

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数	必修	履修	サバタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	到達目標とディプロマ・ポリシーの関連	SDGsとのゴールとの関連						
											1	2	3	4	5	6
地域振興演習	演習	2	1	○			新しい公共と呼ばれる許、行政における政策の立案・評価においても、従来の前例主義や法的論議合理性だけでなく、科学的手法を用いて合理的に行うことが求められている。この演習では、現代社会における政策的課題について、受講生自身が社会調査法や統計学的手法を用いて調査・分析し、最終報告書によって政策提言を行う。本演習は公共政策の分野の中でも特に科学的な調査・分析手法を習得し、受講生自身が実際の政策立案・評価の場で活用できるようになることが目標である。実際に政策課題に関する仮説を設定し、社会調査を行い、その結果を統計的に分析し、政策提言につなげるスキルの向上を目指す。	(1) 受講生自身の問題関心に基づく政策提言をすることができる。	○							
家族社会学特論	講義	2	1	○			家族の成り立ちとその変化について、社会学の知見を再確認し、家族についての基礎的かつ多面的な理解を深めることをめざす。授業では、方法論別、ないしテーマ別に、近現代における日本の家族を実証的にとらえた研究をフォローするテキストを使用する。	(1) 学生は、日本の家族研究の全体像が理解することができる。 (2) 学生は、家族研究のための実証的方法を理解することができる。	○							
家族社会学演習	演習	2	1	○			家族研究は研究対象の身近さに特有の困難がともなう。そのための授業では、現代家族の動態を把握するための様々なアプローチ方法を学ぶ。最終的には、検討した家族研究の方法を、受講生の研究テーマの追求にいかに応用していくかを共同で考えたい。	(1) 学生は、家族研究の為の用いられている、主な社会学的方法を理解することができる。 (2) 学生は、自分の研究に必要な社会学的方法を見定めることができる。	○							
産業・労働社会学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	1	○			企業における経営と従業員、従業員関係そして企業と社会との関係を産業・労働社会学的な観点より明らかにしている。現在の産業社会のあり方とそこにおける労働(者)の課題について、理解と知識を深めることを目的とする。	(1) 組織の基本構造とその変動について理解することができる。 (2) 今日目の産業・労働場における課題と、そこで展開されている支援について理解することができる。	○	⑨						
産業・労働社会学特別演習	演習	2	1	○			受講生の研究テーマに産業・労働社会学的な観点からどのようにアプローチできるかを主題として、内容を組み立てる。それにより、受講生の修士課程での研究の深化と広がりをもたらすようにする。	(1) 自分の研究を、産業・労働社会学的な観点から整理することができる。また、今後の研究課題を具体的に描くことができる。	○							
社会心理学特論	講義	2	1	○			本授業では、社会心理学領域におけるコミュニケーション研究について、最新の知見に関する理解と知識を深めることを目的とする。授業は、発表担当者がレジュメを作成し発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で展開する。 授業では、まずコミュニケーションに関する専門書について、担当個所を各自が発表する。続いて、国内・海外の学術的に掲載された社会心理学に関する研究論文を参考とし、またまとめで各自発表する。受講生は、自らの研究テーマや関心に応じ、教員と相談のうえで、発表担当個所および論文を決定する。	(1) 社会心理学に関する最新の研究動向についての知識を身につける。 (2) 専門書および論文で用いられている研究の方法論を理解することができる。 (3) 論文を独力で読み、内容を理解することができる。	○							
社会心理学演習	演習	2	1	○			本授業では、社会心理学の研究動向に関する知識と理解を深めることを目的とする。非言語コミュニケーション・感情・インターネット上のコミュニケーション等に焦点を当てる。授業は、参考書籍の中から各自が章を選んでレジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で行う。	(1) 授業で扱ったテーマに関する知識がある。 (2) 授業で扱ったテーマに関するこれまでの研究の進展や、今後の研究動向に関して自ら問いを構築することができる。	○							
地域福祉特論	講義	2	1	○			本授業では、複数の視点から、地域福祉について分析・討議を行う。また、地域福祉の推進方法について現状を考察し、問題点と問題解決のアプローチについて研究する。授業は、教科書の中から担当の章を決定しレジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で行う。	(1) 個を地域で支える援助について説明することができる。 (2) 個を支える地域をつくる援助について説明することができる。 (3) 地域福祉の基盤づくりについて説明することができる。	○	③						
地域福祉演習	演習	2	1	○			本授業では、地域における福祉の展開に関する研究の動向に関する知識と理解を深めることを目的とする。参考書籍・論文の中から受講生が各自レジュメを作成して発表し、発表内容について受講生同士がディスカッションする形式で行う。	(1) 地域福祉に関する研究動向について説明することができる。 (2) 居住支援に関する研究動向について説明することができる。	○	③⑩						
被害者学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	講義	2	1	○			この授業は、被害者学に関する講義として、最初に被害者学研究の基礎的事項について説明を行い、第2回目以降は、①犯罪被害者と法について、②我が国の犯罪被害者の実態と被害者支援策について講義形式の授業となる。被害者学に関する授業は、大学院で初めて受講する者も多いと思われる。また教員は授業内容や方法も異なる。したがって教員からの指示に従い、しっかりと予習した上で授業に臨むことが求められる。	(1) 受講生が、被害者学研究の基礎的事項について理解することができる。 (2) 受講生が、我が国の犯罪状況および犯罪被害の実態と被害者支援策について授業で扱った内容を理解することができる。 (3) 受講生が、犯罪被害者と法について授業で扱った内容を理解することができる。	○							
被害者学演習	演習	2	1	○			この授業は、被害者学に関する英語の文献を講読するものである。具体的には、最初に被害者学の英語文献を講読する際の注意事項に基本的事項について説明し、第2回目以降は海外の被害者支援団体に関する英語文献・資料について、講読することになる。この授業では、受講生が指定された英語文献・資料を逐語訳し、内容を理解することにとどまらず、内容に関する討議も行うこととなる。したがって受講生も予め和訳した上で授業に臨むことが求められる。	(1) 受講生が、被害者学の英語文献を講読する際に注意すべき点について理解することができる。 (2) 受講生が、海外の犯罪被害者支援団体に関する資料の内容を理解することができる。	○							
マス・コミュニケーション論特別演習	演習	2	1	○			社会における人間を理解するため、マス・コミュニケーションに関する実証研究を実施するに当たって必要とされる研究技法について学ぶことを目的とする。マス・コミュニケーション研究においては、質問紙調査・内容分析・観察・実験といった手法を用いて量的、質的研究が行われている。この授業では、授業担当者が専門とする研究手法に重点をおくこととする。	人間の本质と、社会と個人の結合原理を理論的、実証的に考察するため、マス・コミュニケーションな実証的研究手法を身につけることである。	○							
情報と社会特論	講義	2	1	○			本講義では、社会における人間を理解するため、情報化社会における知識基盤社会における情報資源に如何に向き合っていくべきかという視点に基づき、情報資源の電磁的記録(電子的記録)とICTの活用について考察する。特に、電磁的記録とICTについてはデジタルアーカイブに焦点を当てる。	(1) 情報化社会・知識基盤社会における電磁的記録、具体的にはデジタルアーカイブを理解し、その原理・現状・課題を説明し、論考することができる。	○							
情報と社会演習	演習	2	1	○			社会における情報の収集と公開に関する演習を行う。社会における様々な文化資源を対象に各自テーマを定め、その情報を収集しデジタルアーカイブする。アーカイブした情報をもとにウェブサイトを作成する技法について学ぶ。	(1) 社会における文化資源を収集し、デジタルアーカイブを制作しウェブサイトとして公開することができる。	○							

常盤大学大学院 人間科学研究科 修士課程 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	秋学期	春学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)	ディプロマ・ポリシーとの関連
臨床学習心理学特論	講義	1・2	○				行動分析学は、行動と環境との間の関数関係ないし機能的関係を明らかにし、行動の予測と制御を可能にすることを旨とする学問である。Baer, Wolf, & Risley (1968, 1987)は、応用行動分析(Applied Behavior Analysis; ABA)を特徴づける7つの次元を示した。すなわち、応用的、行動的、分析的、テクノロジカル、概念体系的、効果的、一般性である。これら次元を満たすかどうかで、研究ないし行動変容プログラムは、応用的かどうか決定される。	(1) 応用行動分析の定義と基本的特徴を理解することができる。 (2) 行動を測定し、評価し、分析する方法を理解することができる。 (3) 応用行動分析の基本的手続きや技法を理解し説明することができる。 (4) 応用行動分析家の倫理について理解することができる。	○		
臨床心理関連行政論特論	講義	1・2	○				近年、臨床心理学的支援は、多種多様な領域で役立つことが期待されています。本講義は個としての人間が抱える様々な問題に対し、臨床心理学的知識や支援技術を、行政システムが絡んだ現場でどのように活かしていくかについて総合的に学ぶ。講義形式ですが、提供した情報を基に、ディスカッションやディベート等のアクティブラーニングによって内容をより自身の問題として引きつけて理解することを重視する。	(1) 現在の臨床心理領域における行政的枠組みを理解することができる。 (2) 幅広い視点で、人間を理解することができる。 (3) 社会の福祉の増進に寄与できる専門的職業人としての知識を身につける。	○		
臨床健康医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	1・2	○							◎	
投映法特論	講義	1・2	○				心理臨床の現場で活用される代表的な投映法としては、ロールシャッハ法、ワムテスト、文章完成法(SCT)などがあるが、本特論ではロールシャッハ法を中心に学習する。ロールシャッハ法は刺激となるインクブロットを知覚して被験者が何に見立てるかという創造的活動を通して被験者のパーソナリティをアセスメントする。シンプルな刺激と教示であり、幼児から高齢者まで幅広い対象に施行できるため、様々な現場で利用可能な検査法である。本特論では、ロールシャッハ法の基礎を講義した上で、受講者自身が検査者として施行した結果を分析・解釈したレポートをもとに議論する。	(1) ロールシャッハ法の施行・結果の整理と解釈をすることができる。 (2) ロールシャッハ法を用いた論文を読むことができる。 (3) 支援を要する対象者やその関係者のニーズにあわせたフィードバック所見を作成することができる。	◎		

＜SDGsの17のゴールとの関連＞
 議論:SDGsの概念や考え方を学ぶ
 ①:貧困をなくそう
 ②:飢餓をゼロに
 ③:すべての人に健康と福祉を
 ④:質の高い教育をみんなに
 ⑤:ジェンダー平等を実現しよう
 ⑥:安全な水とトイレを世界中に
 ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 ⑧:働きがいも経済成長も
 ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう
 ⑩:人や国の不平等をなくそう
 ⑪:住み続けられるまちづくりを
 ⑫:つくる責任つかう責任
 ⑬:気候変動に具体的な対策を
 ⑭:海の豊かさを守ろう
 ⑮:陸の豊かさも守ろう
 ⑯:平和と公正をすべての人に
 ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう